

令和4年度 江戸川区立南葛西第二中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	国際社会に貢献できる人間の育成を目指して ・人権を重んじ自他を敬愛する。(礼儀) ・自主自律の習慣を身に付け将来を目指して自己実現を図る。(自律) ・心身を鍛え、個性の発揚を図る。(自律) ・所属社会の向上と環境改善を目指して著実に努力する。(開拓)	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	『自他を大切にし、自分や社会の目標達成のために、互いに高めあえる学校』 『自分を大切に 人を大切に 今を大切に 未来を大切に』することができる生徒 『学び続ける教師(人)』をモットーに、自らを成長させ続ける教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・落ち着いた学習環境を整備でき、生徒の主体的な活動場面を多く計画実施することができた。 ・いじめや問題行動への組織的な指導体制が確立できた。特別支援教育への理解が深まり、個別指導が円滑に行われた。 <課題> ・保護者の教育活動に対する関心を高め、生徒の家庭学習の充実を推進する。 ・不登校解消や不登校の未然防止を徹底するとともに、様々な学習支援の環境を一層整備する。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	
いさいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学習コンテスト:年3回(study weekとの連動、ペーシックリールの活用) ・放課後補習教室:参加者100名、定期考査前質問教室等:年間延べ60回 ・タブレット端末の活用促進:総合・読書科での利活用	・コンテストにおける自己目標の達成率80% ・補習教室出席率:80%、質問教室等参加者:1生徒5回以上の参加 ・成果物(生徒作品)を各自2点以上制作	B	B	○今年度から開始した「学習コンテスト」を円滑に実施でき、生徒の学習意欲の向上が図られた。 ●補習教室の出席率の向上や質問教室等の利用が増加している。	B	・頑張っている生徒はたくさんいると思います。学習意欲が高まり、出席率を向上させる。 ○総合的な学習の時間及び読書科の年間計画の見直しを行い、活動の充実を図る。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善	・保健体育科の補強運動:毎時間 体力向上週間の実施:学期に1週間	・生徒による授業アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上 ・生徒による授業アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上	B	B	○保健体育科の授業内での体力向上は推進された。生徒アンケートからも生徒の意欲向上が見られた。 ●授業や行事以外に体力を向上させる機会を設定していくことが課題である。	B	○身体みなどに運動に親しむ機会を設ける。 ○外部講師を活用し、講習会等を実施する。 ○運動部活動の再編成を検討する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・区立図書館との連携及び図書ボランティアとの連携 ・ピブリオバトルの実施:全年度で実施 ・朝読書における「課題図書」:月1回	・生徒貸出し冊数:前年比+20% ・生徒による授業アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上 ・読書課題への提出率:75%以上	A	A	○学校図書館の整備や開館活動・貸出活動は充実した。課題読書を提示し、多角的多面的な読書が推進された。 ●読書科における課題探求学習を意図的・計画的に実施し、生徒の読書活用力を向上させることが課題である。	A	・使いやすしい図書室、読みたい本がある図書室であることも良いです。 ・貸出、アンケート、課題提出の達成は素晴らしい。読書の取組は朝読書・読書科等の充実と学校図書館の環境整備にも取り組んで、本に慣れ親しめるようにしていただきたい。
	「持続可能な社会の創手」を育成する教育の充実	・全教科、領域において指導方法の研修を推進	・校内研究授業:年3回9年級すべてで実施	・生徒アンケートによるSDGsの関心度理解度調査:2回目の結果前年比+20%	A	B	○SDGsへの意識向上が図られた。 ●日常的、将来的な実践意欲と行動力を身に付けさせることが課題である。	A	・意識の向上が図られれば、行動力は遅れて身につけてくるとも思います。粘り強く指導ください。 ・SDGs＝節電、節水ぐらいの意識の生徒が多いように思う。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副都交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援教育推進委員会の活性化:週1回 ・クールダウンスペースの設置 ・副都交流における交流の充実	・保護者による学校評価アンケートでの認知度:前年度比+20% ・保護者による学校評価アンケートでの認知度:前年度比+20% ・直接交流を学期1回実施	B	C	○週1回時間実施した校内特別支援教育推進委員会の機能が充実し、具体的な指導方法等の共有が図られた。 ●特別支援教育に関する啓蒙を一層推進し、保護者・生徒の理解を深め、共生社会実現の推進が課題である。	B	・認知度が高まっていない。保護者への発信を増やしてほしい。 ・副都交流における直接交流の情報提供を行ってほしい。
	子どもたちの健全育成の推進	・子どもたちの健全育成に向けた取組の強化	・校内生徒連絡会…週1回 いじめ防止対策委員会…週1回 ・外部情報の共有…月1回	・いじめ継続件数…0 ・不登校生徒数…前年比-50%	A	B	○いじめ基本方針に基づく取組や登校できない生徒への個別・段階的指導が実施できた。 ●いじめの早期発見のための取組や登校できない生徒への関係諸機関との連携を強化していくことが課題である。	A	・部活動を通じて活躍したり、生き生き取り組んでいる様子が伝わってくる。 ・生徒が目標をもって登校しているように感じる。いじめが減少していることはよい。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・生徒による授業アンケート、生活アンケート:年2回 ・保護者による学校評価アンケート:年2回	・全設問において肯定的評価80%以上 ・回答率75%以上	B	B	○各質問項目について、数値目標とする肯定的評価を得ることができた。 ●回答率は目標値の半分にも達せず、回答率向上のための改善が急務である。	B	・アンケート回答率が悪い。 ○アンケート内容や方法を見直し、回答しやすい学校評価アンケートを実施する。
	家庭、地域との連携の充実	「信頼される学校」の構築に向けた連携の機会を設定と実施	・地域行事への参加または地域内での生徒の活動:学期1回 ・三者面談:年2回、随時相談:適宜	・地域からの苦情、意見…0 ・保護者による学校評価アンケート:満足度85%以上	B	B	○地域行事に参加することができるようになった。また、地域清掃を継続実施することができた。 ●家庭や地域との連携を一層深め、学校への信頼度を向上させることが課題である。	B	・コロナ禍であったため仕方ないところもあるが、地域との関わりは少ないと思う。 ・子供への興味や学校への信頼が薄かったりなかったりする地域や保護者に情報発信してほしい。 ○PTAと連携した企画を検討する。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・業務のICT化、ペーパーレス化の推進 ・休暇取得の促進、休暇が取りやすい雰囲気醸成	・定時退勤日:各月2日 ・定時外在校時間≧100時間超職員「0」	B	B	○「定時退勤」を2月2日行える教員が増え、定時外在校時間が80時間を超える教員が減少した。 ●校務分掌等の負担の均衡化、校務の効率化・スリム化の推進を一層強化することが課題である。	B	・仕事量が増えている中で労働時間の削減とは矛盾していますが、創意工夫して頑張ってください。
	「学校応援団」との連携	外部人材の活用による教育高度の充実	・ゲストティーチャー、授業サポート、図書館整備、社会人講話等における人材派遣:年間30人	・学校評議員による学校評価:肯定的回答90%以上	B	B	○学校応援団の方々の協力を得て、教育活動の充実に図られた。 ●学校委員会の定期開催や学校公開の充実を図り、「開かれた学校」を構築することが課題である。	B	・学校応援団の方々には感謝しきれないほど活動していただいていると感じている。